

# 10月号 営農インフォメーション

## 水稻・小麦の管理のポイント

水稻・・・令和6年産に向けて、土づくりの指導を行いましょよう。

小麦・・・水稻収穫後、速やかに排水溝などを設置し、ほ場の乾田化に努めるよう指導しましょよう。

## 【水稻】

### ① 土づくり

安全・安心でおいしいお米をつくるには土づくりが重要です。

土づくり肥料 **田華の豊稲(写真1)を10aあたり60~80kg(3~4袋)**を施用し、わら・もみがらと一緒にすき込みましょよう。

水稻は昔から『地力でつくる』と言われるほど、地力は収量に大きく影響します。近年の温暖化や畑作輪換により地力が低下していることも考えられます。地力を維持向上させるためには、堆肥等の有機物の施用が必要です。

●粒状濃縮堆肥 **新ふりかけ堆肥 eco(写真2)を10aあたり100~200kg(5~6袋)**を施用ましょよう。※通常の堆肥は、10aあたり1,000kg~2,000kgの投入が水稻の場合の目安です。

稲わらもみ殻を鋤き込む場合は、10月~11月の気温(地温)の高い時期に行い、腐熟を早めましょよう。また、カドミウム吸収抑制対策として、pH値6.5を目指した土づくりを行いましょよう。

※ 野焼きは、火災や煙により周辺住宅の環境や道路の通行に支障をきたす恐れがあるため、絶対にやめましょよう。



写真1

田華の豊稲

### 土づくり肥料「田華の豊稲」の効果・特徴

1. ケイ酸ベース肥料と比べてケイ酸の吸収利用率の高い「<sup>ようせい</sup>熔成<sup>さん</sup>ケイ酸<sup>び</sup>リン肥」をベースとした肥料であり、省力・低コストを実現した土づくり肥料です。
2. リン酸・ケイ酸・苦土・アルカリ分を主とした成分がバランスよく含まれていることで水稻を健全に育て、収量や品質の向上につながります。
3. 保証成分としてアルカリ分を含んでおり、土壌の酸性を穏やかに矯正し、カドミウム吸収を抑制する効果があります。

## 【田華の豊稲】【必須】

保証成分 (%)				含有成分 (%)
リン酸	苦土	ケイ酸	アルカリ	鉄分
4%	9%	30%	45%	2%

○リン酸…植物の生長、分けつ、根の伸長、開花、結実を促進します。

○苦土…リン酸の吸収を助ける働きがあり、植物の活力の基本となります。

○ケイ酸…葉や茎を丈夫にし、害虫の侵入を防いで倒伏を軽減する効果があります。

○アルカリ…カドミウムの吸収を抑制する働きがあります。

## 新ふりかけ堆肥 eco【選択】



写真 2

新ふりかけ堆肥 ecoには、土壤有機物含量地力の素を維持向上させる効果が期待できます!!

また、通常堆肥の1/10の量の施用で土づくりが実施でき粒状で散布が行いやすくなっています。

稲わらと鋤込むことにより、さらに有機物含有量を向上させ安定生産・収量アップが期待できます!!

新ふりかけ堆肥 eco 散布時期：収穫後～翌年3月頃まで

含有量 (%)					
チッソ	リン酸	カリ	苦土	ケイ酸	鉄
1.9	2.1	1.0	0.8	1.02	1.0

### ② 深耕

土づくり肥料の施用後、耕耘を行います。耕耘は15cm以上を目標に行います。深耕は、根の伸びる範囲を広げるとともに土をやわらかくし根の活力を高め、出穂～登熟期の窒素や水分の吸収が高まり、健全な稲を育てることにつながります。反対に耕起深が浅い場合は根の生長を妨げ、収量の減少につながる恐れがあります。

※作業は低速で行いましょう。

## 【小麦】

### ① 排水対策

畑作物である麦は湿害に弱い作物であり、播種に備え排水溝を設置することが重要です。プラウ式溝掘機などを使用して排水溝を設置し、排水対策をしっかりと行いましょう。また併せて、弾丸暗渠<sup>あんきよ</sup>などの施行も行くと、ほ場の乾田化が図れます。田面に亀裂が入る程度によく乾燥させると麦の播種時の作業性が高まり、発芽および苗立ちが向上します。また、降雨時には、しっかり排水されるように排水溝の点検を必ず行いましょう。



プラウ式溝掘機での溝切りの様子



排水対策の様子

しっかりと尻水戸までつなぐこと

## ② 施肥（土づくり）

麦は酸性に対して弱い作物です。pH 値が6以下になると収量の減少につながりますので、酸度矯正とリン酸補給を併せて、はたけ太郎を10aあたり100kg（5袋）施用しましょう。



### 今後の施用管理

※施用時期は気候により異なるため目安になります。

はたけ太郎

### 全層施肥体系

	肥料名	施肥量 kg/10a	施用時期
土づくり	はたけ太郎	100	10月下旬
基肥	① 化成肥料 14-14-14	30	11月上旬
	② 化成肥料 20-0-10	20	
追肥	① 化成肥料 14-14-14	20	12月下旬
	② 化成肥料 20-0-10	15	
穂肥	化成肥料 20-0-10	20	2月下旬～3月上旬
実肥	硫安	20	4月下旬

### 2タッチ体系【分施】

	肥料名	施肥量 kg/10a	施用時期
土づくり	はたけ太郎	100	10月下旬
基肥	セラコート R2500	30	11月上旬
穂肥	セラコート R2500	30	2月下旬～3月上旬

### 一発体系【一発】

	肥料名	施肥量 kg/10a	施用時期
土づくり	はたけ太郎	100	10月下旬
基肥	麦パンチ	40	11月上旬
実肥	硫安	20	4月下旬

### ③ 種子更新

自家採種を繰り返していると、熟期や品質にばらつきが見られるようになるので、毎年種子更新を行きましょう。

### ④ 種子消毒

麦の病気には種子伝染するものが多く、裸黒穂病・なまぐさ黒穂病・斑葉病は種子伝染する病気です。発病後の防除は困難であるため、必ず種子消毒を実施しましょう。種子消毒剤については以下の通りです。

#### 【種子消毒剤】

- 適用病害虫：紫斑病、なまぐさ黒穂病、裸黒穂病など
- 使用量：乾燥種子重量の0.5% ※種子10kgに対して50g
- 使用時期：播種前 ●消毒方法：粉衣処理



### ⑤ 播種

早すぎず、遅すぎず適期・適量播種を行います。麦は播種が早すぎると厳冬期までに幼穂が分化し、凍結害や寒害により不稔粒の原因につながります。播種量が多いと過繁茂となり病気や倒伏につながります。また、播種量が少ないと茎数確保ができず減収につながるので注意しましょう。

#### ●播種時期

ふくさやか・・・ 11月1日～11月20日頃

※黒節病など被害防止のために、「ふくさやか」は必ず11月に入ってから播種を行います。

#### ●播種量

品種	全層播き（ばら播き）	機械播き（条播き）
ふくさやか	8～10 kg/10a	6～8kg/10a